マルチエージェントシステム

公立はこだて未来大学 鈴木恵二

FUTURE UNIVERSITY HAKODATE

セルラーオートマトン(CA)と マルチエージェントシステム(MAS)

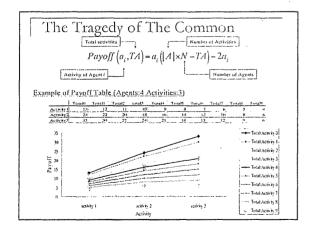
- CAとMASの違いを考えるために
 - a CAにおける「協調行動の生成」
 - s CAの「利得関数」と利得の「分配」
 - っ「利己的」なCA
 - o CAにおける「ジレンマ」
 - a CAにおける「交渉」手法

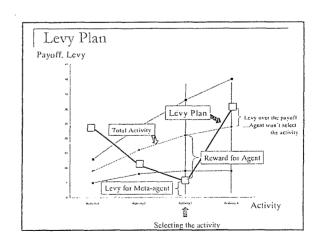
MASたらしめるもの

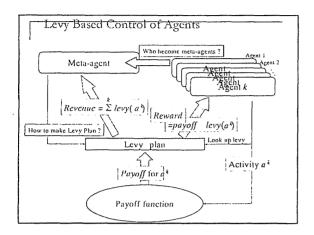
- 社会性を埋め込まれた計算主体
 - □ エージェントの目的:利得の最大化
 - □ 利得獲得:他のエージェントとの相互作用必要
 - ロ 相互作用における態度:協調vs競合
 - □ 全体と部分の衝突:ジレンマ

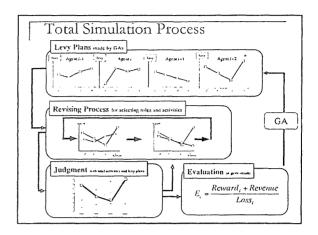
役割を変えるエージェント

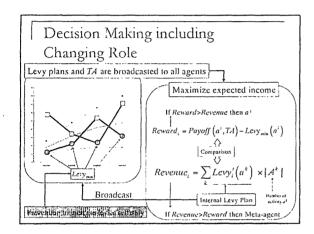
- 全体的協調(調和)
 - □ 個々のエージェントの行動規範ベース
 - 部分が全体を形成
 - α アプローチ:調停役エージェントの導入
 - 全体を統べるエージェント役を導入
 - ロ 問題点1:どのような調停を行うか?
 - ロ 問題点2:だれが調停を行うか?
 - ■「役割を自律的に変えるエージェント」
 - □ 題材:共有地の悲劇
 - ロ プレイヤーの行動に応じて「税」をかけるエージェントの創発

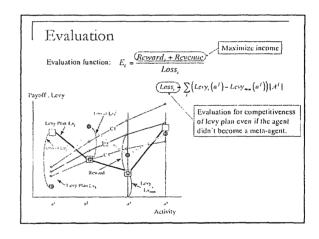


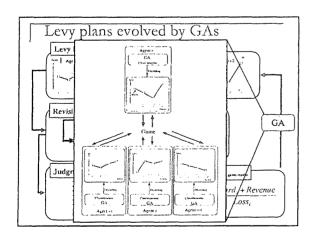


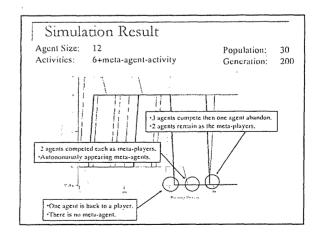


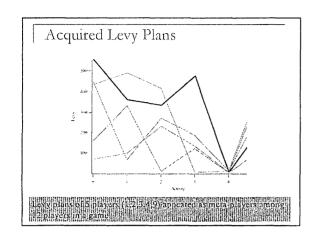


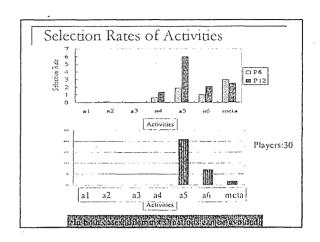












まとめ

- CAとMASの観点の違い
- MASにおける社会性
- 調停役エージェントの導入とその効果